

平成 29 年 12 月期通期の決算説明会 質疑応答の要約

2018 年 2 月 9 日(金)に開催した、決算説明会において、出席者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMO インターネット代表取締役会長兼社長 グループ代表の熊谷、同 CFO 安田並びに GMO ペパボ社長の佐藤より回答させていただきました。

●2017 年度通期連結業績における事業の内容について

- 【Q1】 【アクセス事業】成長率が上がっているが、何か特別なキャンペーンによるものなのか？またこの成長率は持続可能なものなのか？
- 【A1】 アクセス事業では、業界的にも継続的にキャンペーンを行なわれており、今期特別なことを行なったわけではありません。マーケティング手法の多様化が効いていると考えており、今期も成長を期待しています。
- 【Q2】 【ドメイン事業】ドメイン売上が QoQ で伸びているが、.shop の更新率が効いているのか、それとも別の要因か？
- 【A2】 レジストリ事業、レジストラ事業共に伸びており、この四半期はレジストリ事業で一時売上（約 2.2 億円）がありました。
- 【Q3】 【.shop】更新率(66.2%) が低いように感じるが、どう評価しているのか？
- 【A3】 3 ヶ月しか経過していないので、この更新率が続くかなどはまだ分かりません。更新率は 2 つの要素が関係しています。1 点目は実際の web サイトでの利用率ですが、新 gTLD の中では利用率 No.1 となっています。2 点目は、初年度価格と更新価格の差が大きいほど、更新率は低くなる傾向にあります。.shop は値段を大きく下げたキャンペーンを実施した時期もあったので、今後の中期の動向を見てもないと適正な評価は難しいと考えます。
- 【Q4】 【.shop】17 年度は損益とんとんまで投資するということだったが、2018 年度は利益貢献を期待していいのか？
- 【A4】 A.レジストリ事業は更新母数が積み上がるほど収益性が高まる構造にあります。ですので、2018 年までは更新母数を溜めるステージで利益は横ばい。2019 年以降から利益貢献するステージに入ってくることを期待しています。

【Q5】 【minne（ミネ）】の流通額について、2018年度の目線は？

【A5】 2017年度は3Qまでは効率性重視の運用をしたこともあり、伸び悩みがあったものの4Qは年末にTVCMやキャンペーンを行い、押し上げができました。

2018年度はプロモーションに加え、既存ユーザーのリピート施策を重点的に行なうことで125億円を目指します。

●業績予想について

【Q6】 2018年度のインフラ、広告事業の見通しについて教えてください。

【A6】 インフラは従来の成長率で見えていただきたいと思います。広告事業は横ばいになっていますが、今年は必ず反転します。以前は他社のプロダクトを売っていましたが、今は自ら開発したものを販売しており、利益率も改善しています。

●マイニング事業について

【Q7】 （スライドにあった計画では）マイニング事業は2018年度に380億円の投資、1500PHを目指すということですが、この投資額にはDCセンターの電気代などのランニングコストも含まれておりますか。

【A7】 はい、ランニングコストも含んだ費用です。

【Q8】 マイニング事業で電源を落とさなければならないビットコイン価格の前提を教えてください。

【A8】 ビットコインの価格というよりも、現在は既製品を利用しているため、消費電力は他社と一緒ですが、マシンの償却費は数ヶ月で回収可能。問題は電気代ですが、北欧の電気代は日本の1/4程度なのであまり大きな障害にはならないと想定しています。

18年下期からは自社チップが利用開始となり、原価ベースのチップ（マイニングマシン）の償却と電気代の問題だけになります。マシンは貸し出し期間終了後（償却済み）に自社マイニングでも利用できるため、残るは電気代となるため、ある意味リスクは限定的だと捉えています。

●クラウドマイニングについて

【Q9】 クラウドマイニングのビジネスモデルについて教えてください。レンタル料は1契約あたり5億円とのことですが、1契約あたりのPH数など、ビジネスモデルについて教えてください。

【A9】 金額に見合うPH数での販売とご理解頂ければ幸いです。またサービスの詳細については、現在検討中であることも含め、3/1に発表いたしますのでウェブサイトをご覧ください。下期以降、毎月400PH/s程度を増加していきたいと考えております。この範囲で、(400PH/sには当社が自社で利用するハッシュレートも含まれます) 毎月8契約までのご契約を予定しています。

●GMO あおぞらネット銀行について

【Q10】 GMO あおぞらネット銀行の開業に伴うPL負担はどの程度か？

【A10】 開業に伴い一定の初期コストの発生が見込まれますが、現状は持分比率14.9%の持分法適用会社であるため、業績への影響は限定的と考えています。

●セキュリティ関連について

【Q11】 セキュリティがらみでインシデントが今期あったが、グループ全体として何かアクションはあるのでしょうか？

【A11】 投資家の皆様にはご心配をおかけして申し訳ありません。

教育、仕組みを作るなど、様々な観点から(調査委員会のレポートなどからもご理解いただけたと思うが) 対策を講じてきたものの、結果としてインシデントが発生していたのは事実です。これに対して、外部から知見のある方を招聘し、コンプライアンス本部(仮称)を設置する準備を進めています。自社サービスの調査を専門で行う部隊を組成し、システムの脆弱性を自ら発見する組織を作る予定です。

以上
